

● 第3回全統共通テスト模試から見直しておきたい問題

【問題】

第1問

問 4 下線部㉔に関連して、サライエヴォ事件の背景について述べた文あ・いについて、その正誤の組合せとして正しいものを、後の①～④のうちから一つ選べ。

4

あ オスマン帝国の衰退を背景に、オーストリアとロシアがバルカン半島への進出をめぐり対立を深めていた。

い スラブ系とゲルマン系の民族がそれぞれ統一・連合をめざす動きを見せたことで、対立が激化していた。

① あ—正 い—正

② あ—正 い—誤

③ あ—誤 い—正

④ あ—誤 い—誤

【ポイント】

正解:①

歴史総合の第1問中、最も正答率が低かった(約29%)設問です。誤答は②・③が多かったのですが、これは本問の内容に対する受験生の戸惑いと、選択する際の心理を象徴していると言える結果です。本問は、歴史総合の教科書には書いてあるけど日本史探究ではここまでは踏み込まないという、いわゆる世界史寄りの問題です。おそらく、選択肢「あ」「い」ともに判断に困ったのではないかと思います。こういう判断を保留せざるを得ない場合、「誤」を選ばず、「正」を選ぶ方が正答できる確率は高まるのですが、「正」・「正」を選ぶ勇気はなかなか持てないようで、どちらかを「誤」とする②・③が多くなるのです。それらをふまえた上で、2点アドバイスします。1点目は、歴史総合についてです。どこまで学習すべきかわからない、という声をよく聞きますが、本問のような世界史の知識がなければ解けないという問題はせいぜい2、3問と思われます。負担の重さを考えると、この2、3問を取りに行くのは、よほどの事情がない限り止めた方が良いと思います。日本史探究で出てくる国際関係などをしっかりと学習することは大事ですが、過度に歴史総合を意識しすぎないことをすすめます。2点目は、歴史総合、日本史探究を問わず、選択肢を吟味する際、判断できないものは最終的に「正」もしくは正文とするということです。本問のようなケースに遭遇した際、勇気をもって①を選択してほしい。それで、正答できる確率は高まるはずですよ。